



## 地域でがん患者さんを支えるには 住み慣れた地域で暮らすためのチームづくり

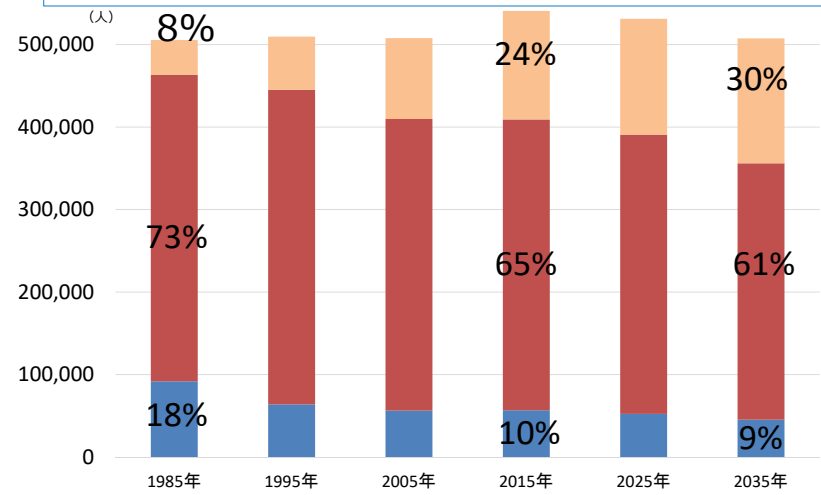
渡邊 清高  
 帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科  
 帝京がんセンター

2019年11月28日

住み慣れた地域でがん患者さんを支えるチームづくり 帝京がんセミナー/地域包括ケア懇話会 2019

## 都市部は今後高齢化が顕著

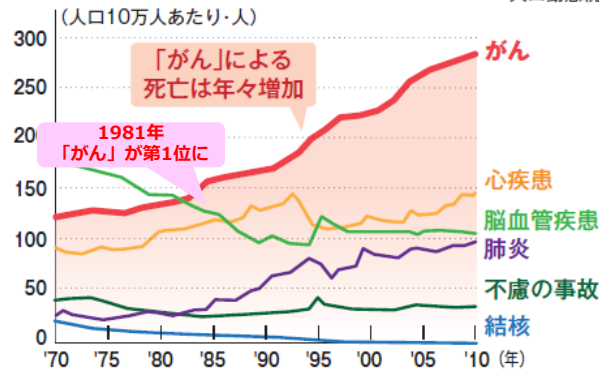
人口比率で、年少人口は半分、老年人口は4倍弱 (板橋区)



■ 年少人口(0-14歳) ■ 生産年齢人口(15-64歳) ■ 老年人口(65歳以上)  
 1985年~2005年 人口動態統計  
 2015年~ 日本の地域別将来推計人口 (平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

## がんになる人はどのくらいいるの？

主な死因別にみた死亡率の年次推移 厚生労働省/人口動態統計

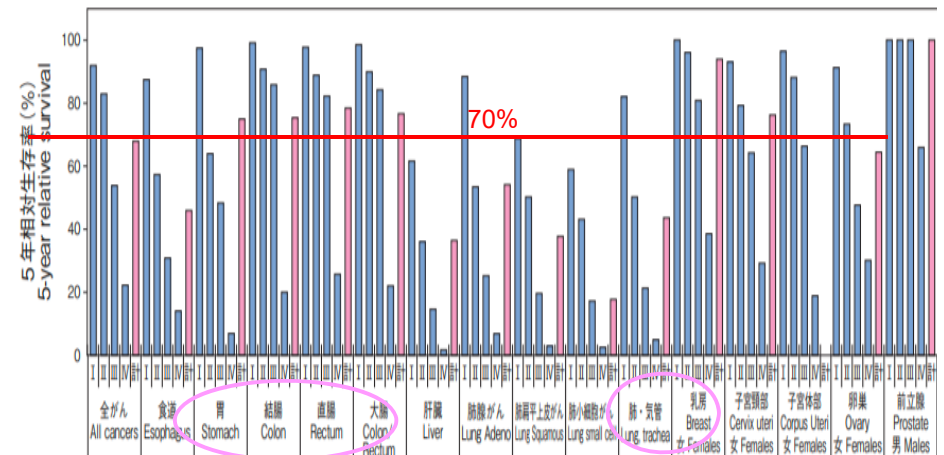


年間37万人の方ががんで亡くなり、  
 1年間で86万人の方が新たにがんと診断されています。

(死亡 2017年データ、罹患 2014年データ)

## 医療の進歩→患者と家族を支える社会へ

がんの5年生存率 (2008-2010 診断治療症例)  
 全国がん (成人病) センター協議会 (全がん協)



胃・大腸・乳がんは5年生存率が70%を超えている

がんの統計'18

# 患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド

## 顔の見える連携から 患者さん・ご家族・地域とともに歩む医療へ



チーム医療のイメージ

患者必携  
がんになったら手にとるガイド  
国立がん研究センター  
がん対策情報センター

<http://homecare.umin.jp>

### がんの在宅療養



ご家族のための  
がん患者さんとご家族をつなぐ  
在宅療養ガイド  
Home Care Guide  
PDF版公開  
html版は毎日公開予定です  
ぜひご覧ください

必要ところから読む

- 第1章 在宅での療養を始めよう
- 第2章 「最期のとき」に向き合うこと
- 第3章 人生の最期をともに生きる
- 第4章 お別れの時期



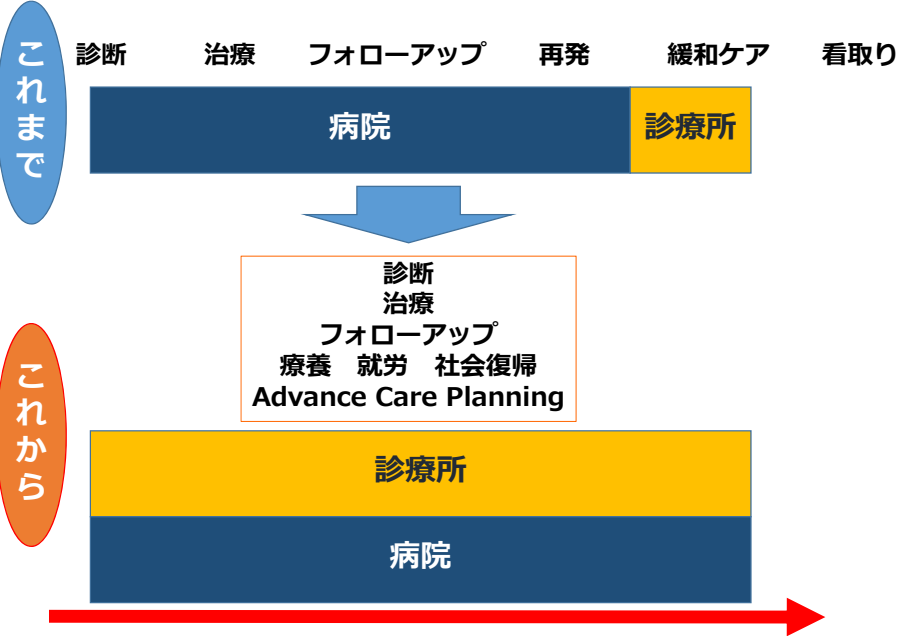
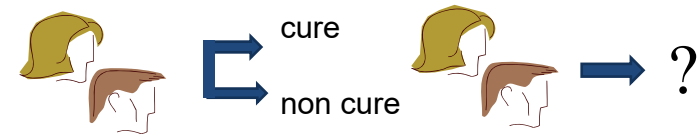
がんの在宅療養

2015年公開  
全文を無料で閲覧可能  
(インターネット)  
全国の  
がん診療連携拠点病院に  
見本版を提供  
2016年書籍化

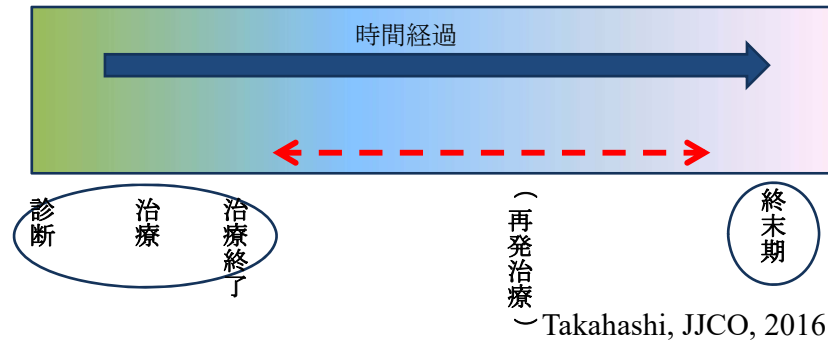
## 「がん」治療と「サバイバーシップ」

Mullan F. Seasons of survival: reflections of a physician with cancer.  
*N Eng J Med.* 313(25): 270-273, 1985

- ◆ アメリカ人男性医師、32歳時に縦隔胚細胞腫と診断される
- ◆ がん体験は、「治癒したかどうか」の単純な二分法では表現できない
- ◆ 最終的な帰結よりも、本人が診断後を生きるプロセスととらえるほうが実感に近い
- ◆ 帰結にかかわらず、体験者が共有する課題がある



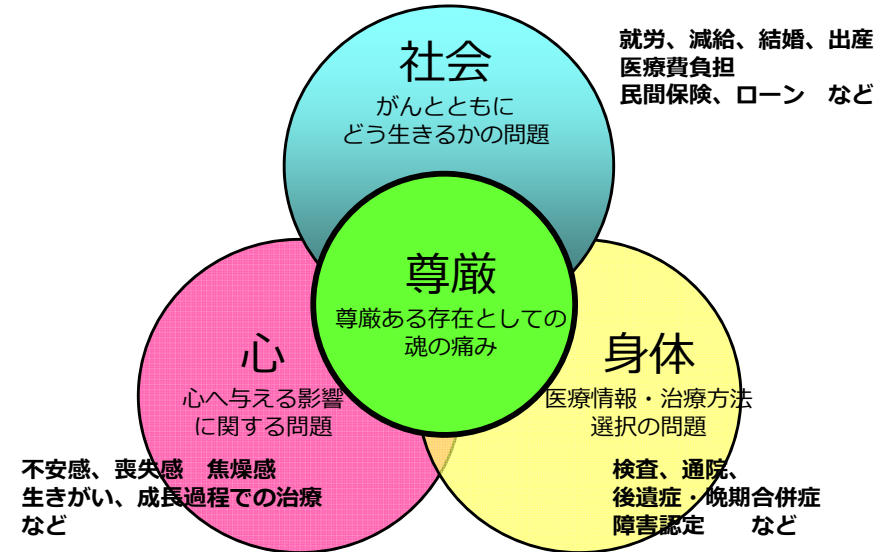
## がんのサバイバーシップが注目する時期



**がんのサバイバーシップとは**  
**主としてがん体験の「間の時期」に焦点をあて**  
**社会生活を送る本人・とりまく人々が直面する困難を明らかにし**  
**状況をよりよくすることを旨とする研究**

◆ **がん診断の後を生きていくプロセス全体のこと**  
 The process of living with, through, and beyond cancer (ASCO)

## がん経験者が直面する4つの痛み



## 板橋サバイバーシップ研究会

- 板橋区医師会 在宅部・学術部・在宅医会
- 患者自身の社会生活を支える視点での社会的・精神的支援の充実を目指す
- 2016年 がん、神経難病、頭頸部がんのQOL
- 2017年 認知症、心不全、間質性肺炎
- 2018年 頭頸部がんの栄養、がんの治療と療養
- 2019年 担がん患者の透析とACP
- 非がん疾患も含めたセルフケア・リハビリテーション  
 意思決定支援、インフォームドコンセント  
 アドバンスケアプランニング、臨床倫理

## 住み慣れた地域でがん患者さんを支える チームづくり 地域連携懇話会2019 の提案

**希望に沿った療養を実現できる地域づくり**のために、医療に加えて、介護・福祉・行政をはじめとする**幅広い関連職種が連携**して、患者さんやご家族の思いを大切にしながら協働していくことが重要です。がん・非がん疾患に関わらず、患者さんの**「よりよく生きる：サバイバーシップを支える」**仕組みをどのようにつくっていくかが鍵になります。患者さんにご家族の**社会生活を支える視点で、地域包括ケアの実践に向けて**話し合います。



## アンケートへのご協力をお願い

- お答えいただいた結果は、よりよい緩和ケア・療養支援の取り組みを普及していくための資料にさせていただきます。

ウェブの回答  
できます